

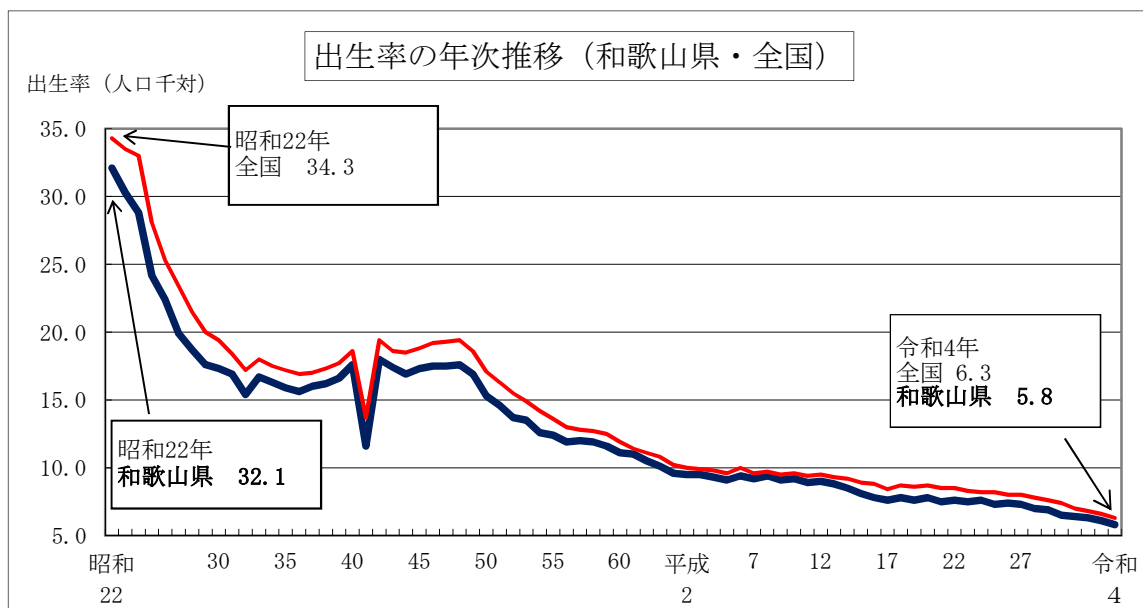
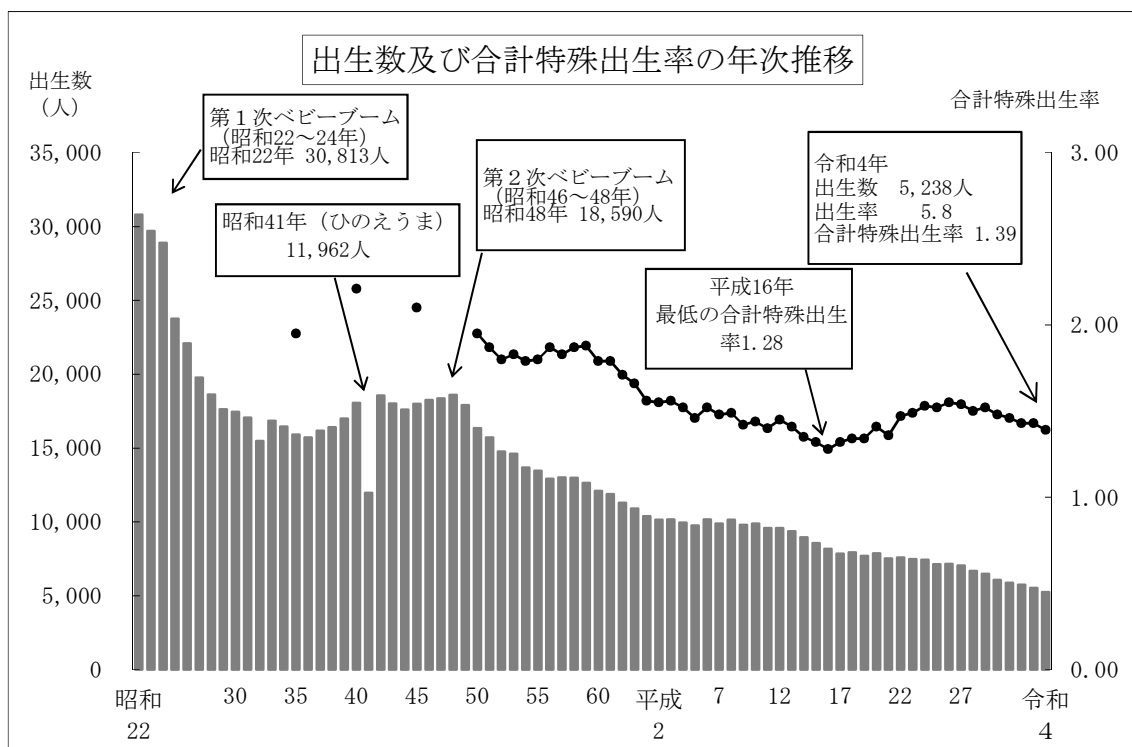
Ⅲ. 結果の概要

1 出生

令和4年の出生数は5,238人で、前年の5,514人より276人減少した。

出生率（人口千対）は5.8で、前年の6.1を下回った。また、合計特殊出生率は1.39で、前年の1.43を下回った。

昭和49年以降、出生数は減少傾向が続いている。



出生順位別の母の平均年齢は、第1子の母の出産年齢が29.9歳で、前年を0.1歳上回った。第2子の母の出産年齢は31.8歳で、前年を0.1歳下回った。第3子の母の出産年齢は33.3歳で前年を0.2歳下回った。

和歌山県は全国に比べ、いずれの出生順位においても母の平均年齢は低い状況にある。

出生順位別母の平均年齢（歳）（和歌山県）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
第一子	29.4	29.3	29.6	29.7	29.7	29.8	29.7	29.5	29.3	29.8	29.8	29.9
第二子	31.0	31.6	31.4	31.7	31.7	31.8	31.9	31.9	31.3	32.0	31.9	31.8
第三子	32.9	33.0	32.9	32.8	33.1	33.3	33.2	33.1	32.7	33.3	33.5	33.3

出生順位別母の平均年齢（歳）（全国）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
第一子	30.1	30.3	30.4	30.6	30.7	30.7	30.7	30.7	30.7	30.7	30.9	30.9
第二子	32.0	32.1	32.3	32.4	32.5	32.6	32.6	32.7	32.7	32.8	32.8	32.9
第三子	33.2	33.3	33.4	33.4	33.5	33.6	33.7	33.7	33.8	33.9	34.0	34.1

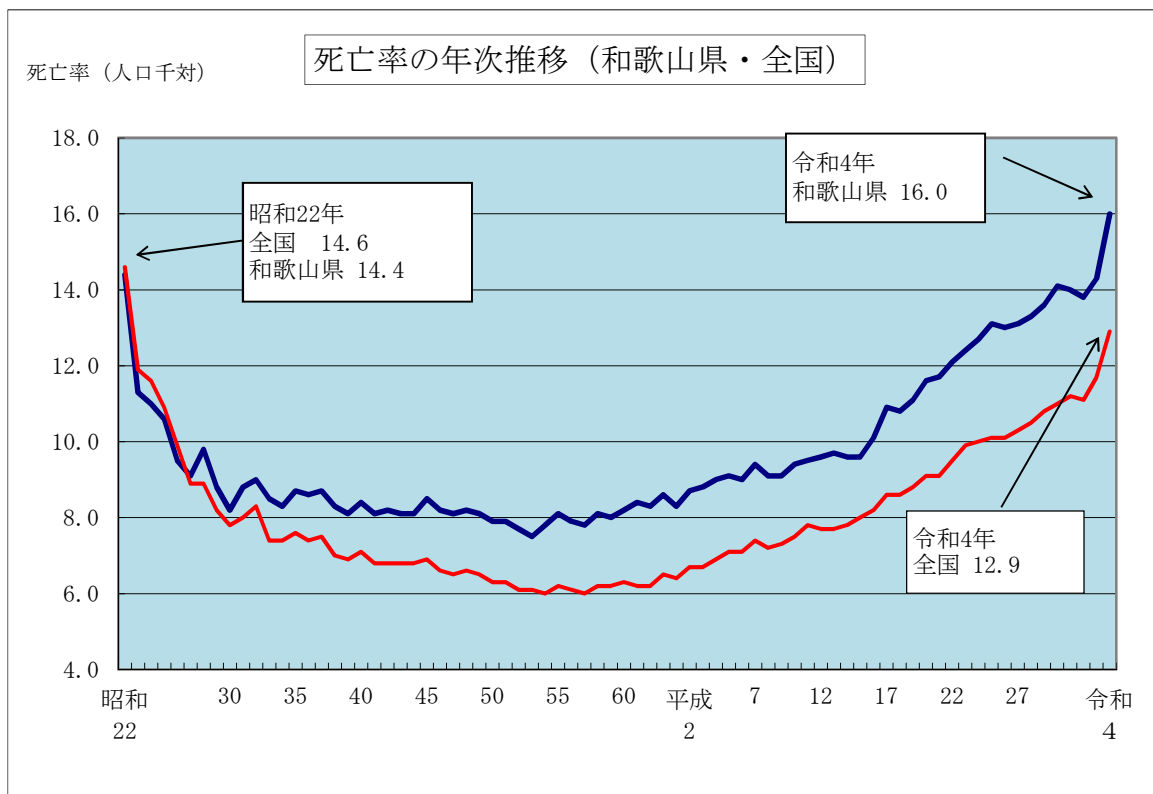
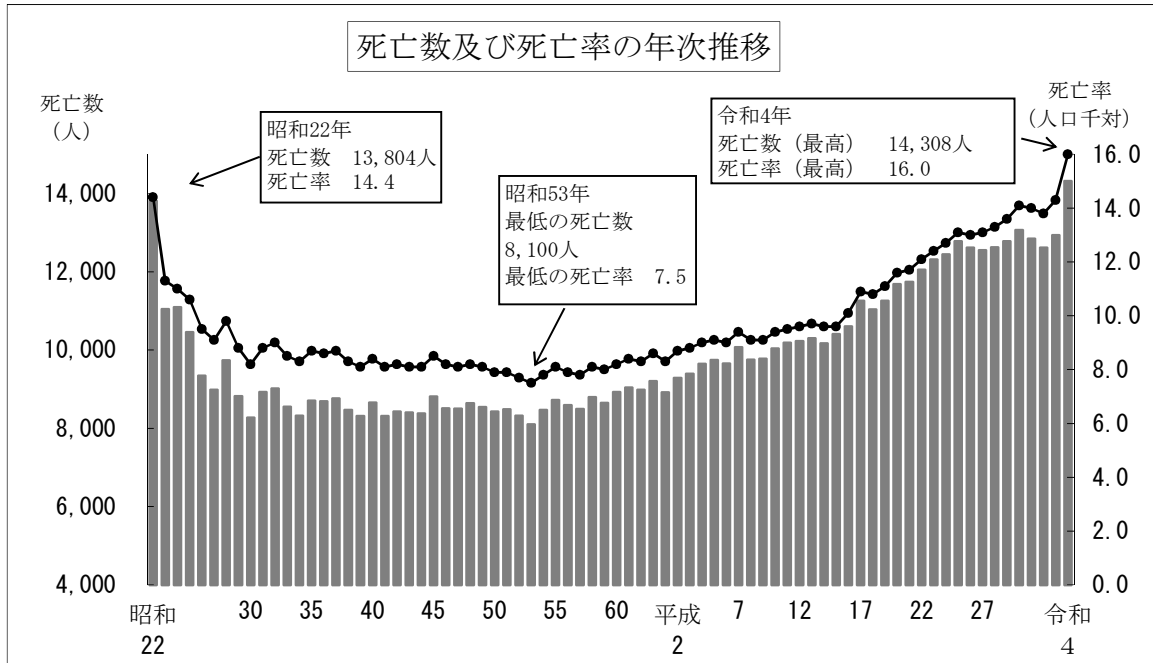
2 死亡

(1) 死亡数・死亡率

令和4年の死亡数は14,308人で、前年の12,930人より1,378人増加した。

死亡率（人口千対）は16.0で、前年の14.3を上回った。

昭和26年以降は8,000人前後で推移していたが、平成7年及び平成10年以降は1万人以上となり上昇傾向にある。



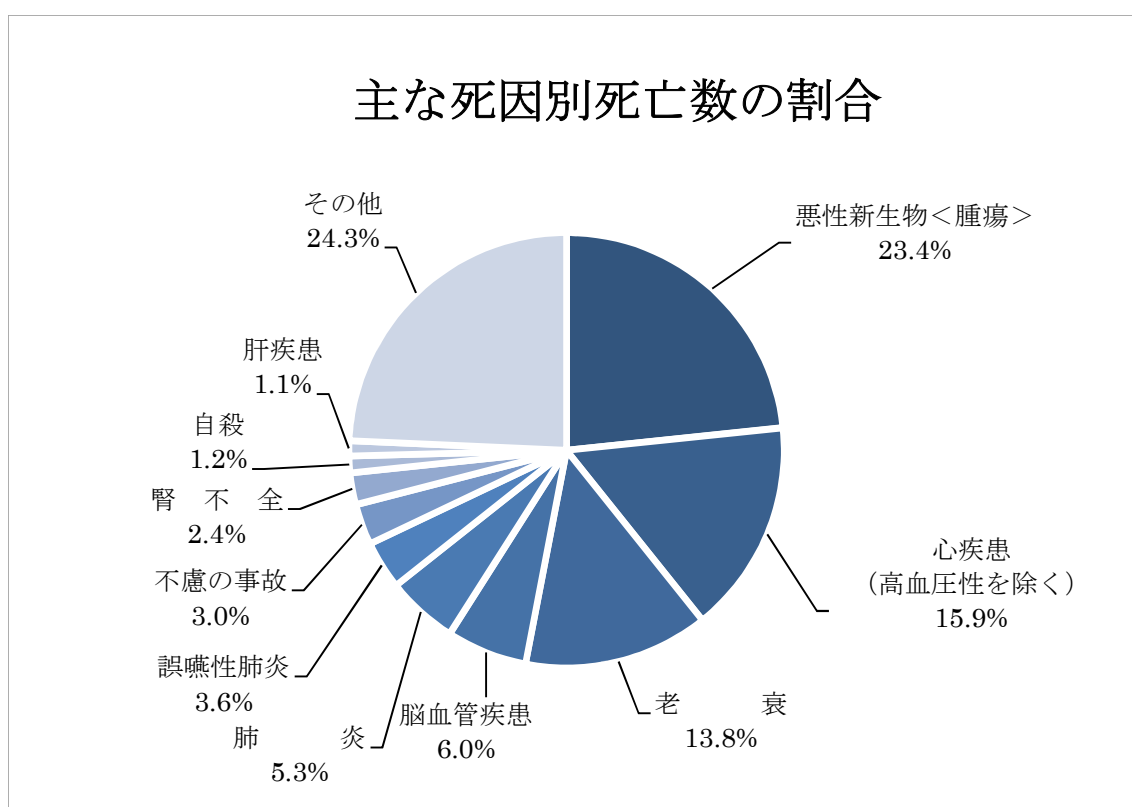
(2) 死因別死亡数

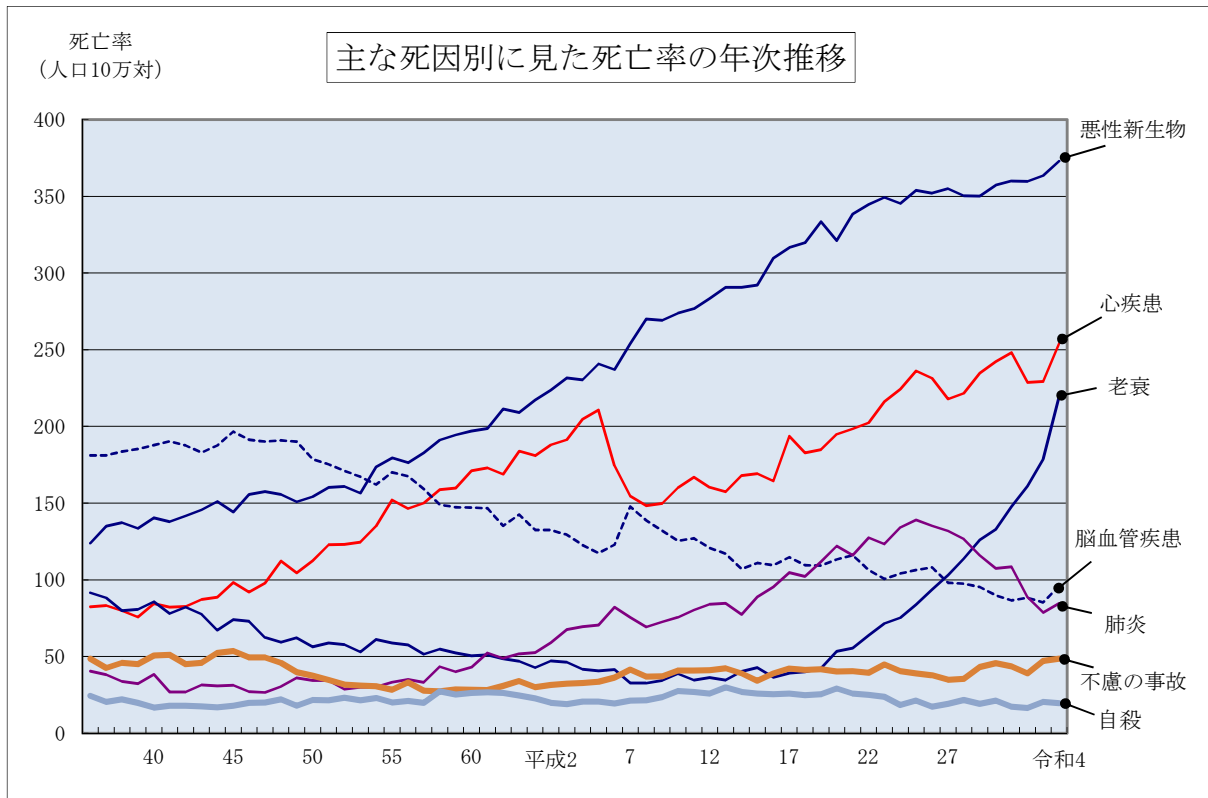
死因別に見ると、死因順位の第1位は悪性新生物、第2位は心疾患（高血圧性を除く。）、第3位は老衰であり、全死亡者に占める割合は、それぞれ 23.4%、15.9%、13.8%となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物は昭和54年以降第1位となり、その後も上昇傾向が続いており、令和4年の人口10万人当たり死亡率は372.9で、前年の363.5より9.4ポイント上がった。

心疾患（高血圧性を除く。）は昭和58年に脳血管疾患にかわって第2位となり、死亡数・死亡率はともに、増減はあるものの、増加の傾向にある。

老衰は平成17年から増加し、平成29年から第3位となっている。





注) 平成6年から7年において心疾患(高血圧性を除く)の死亡率が低下したのは死亡診断書(死体検案書)の記載方法が変わったことが影響したと考えられる。

(参考)

平成7年1月以降、死亡診断書にある死亡の原因欄に「終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は記載しない」こととなった。

死亡数を死亡場所別に見ると、悪性新生物では1位「病院」2位「自宅」3位「老人ホーム」となっている。自宅や老人ホームなど病院以外での死亡者数は増加傾向にあり、病院での死亡者数は減少傾向にある。

心疾患においても1位「病院」2位「自宅」3位「老人ホーム」となっており、脳血管疾患においては1位「病院」2位「老人ホーム」3位「介護老人保健施設」となっている。

悪性新生物による死亡者数（人）（和歌山県）（ ）死亡総数に対する割合%

	総数	病院	診療所	介護老人 保健施設	老人 ホーム	自宅	その他
H21	3,385	2,893 (85.5)	100 (3.0)	11 (0.3)	29 (0.9)	336 (9.9)	16 (0.5)
H22	3,440	2,870 (83.4)	85 (2.5)	20 (0.6)	50 (1.5)	386 (11.2)	29 (0.8)
H23	3,457	2,967 (85.8)	62 (1.8)	16 (0.5)	49 (1.4)	341 (9.9)	22 (0.6)
H24	3,394	2,870 (84.6)	75 (2.2)	20 (0.6)	52 (1.5)	346 (10.2)	31 (0.9)
H25	3,451	2,810 (81.4)	94 (2.7)	29 (0.8)	63 (1.8)	429 (12.4)	26 (0.8)
H26	3,406	2,745 (80.6)	80 (2.3)	23 (0.7)	62 (1.8)	457 (13.4)	39 (1.1)
H27	3,405	2,740 (80.5)	81 (2.4)	27 (0.8)	79 (2.3)	435 (12.8)	43 (1.3)
H28	3,329	2,638 (79.2)	89 (2.7)	27 (0.8)	99 (3.0)	435 (13.1)	41 (1.2)
H29	3,287	2,586 (78.7)	89 (2.7)	28 (0.9)	131 (4.0)	417 (12.7)	36 (1.1)
H30	3,319	2,524 (76.0)	95 (2.9)	39 (1.2)	128 (3.9)	494 (14.9)	39 (1.2)
R1	3,305	2,586 (78.2)	62 (1.9)	30 (0.9)	144 (4.4)	431 (13.0)	52 (1.6)
R2	3,296	2,427 (73.6)	56 (1.7)	58 (1.8)	133 (4.0)	584 (17.7)	38 (1.2)
R3	3,297	2,255 (68.4)	52 (1.6)	47 (1.4)	144 (4.4)	747 (22.7)	52 (1.6)
R4	3,341	2,147 (64.3)	71 (2.1)	49 (1.5)	124 (3.7)	895 (26.8)	55 (1.6)

心疾患による死亡者数（人）（和歌山県）（ ）死亡総数に対する割合%

	総数	病院	診療所	介護老人 保健施設	老人 ホーム	自宅	その他
H21	1,985	1,231 (62.0)	75 (3.8)	40 (2.0)	112 (5.6)	492 (24.8)	35 (1.8)
H22	2,019	1,260 (62.4)	72 (3.6)	45 (2.2)	100 (5.0)	501 (24.8)	41 (2.0)
H23	2,140	1,313 (61.4)	59 (2.8)	54 (2.5)	108 (5.0)	574 (26.8)	32 (1.5)
H24	2,206	1,355 (61.4)	67 (3.0)	49 (2.2)	131 (5.9)	556 (25.2)	48 (2.2)
H25	2,304	1,465 (63.6)	75 (3.3)	63 (2.7)	130 (5.6)	535 (23.2)	36 (1.6)
H26	2,239	1,345 (60.1)	73 (3.3)	68 (3.0)	134 (6.0)	576 (25.7)	43 (1.9)
H27	2,090	1,258 (60.2)	71 (3.4)	76 (3.6)	139 (6.7)	516 (24.7)	30 (1.4)
H28	2,107	1,311 (62.2)	58 (2.8)	84 (4.0)	155 (7.4)	471 (22.4)	28 (1.3)
H29	2,205	1,308 (59.3)	69 (3.1)	118 (5.4)	174 (7.9)	483 (21.9)	53 (2.4)
H30	2,250	1,272 (56.5)	83 (3.7)	114 (5.1)	166 (7.4)	570 (25.3)	45 (2.0)
R1	2,278	1,263 (55.4)	62 (2.7)	155 (6.8)	172 (7.6)	580 (25.5)	46 (2.0)
R2	2,094	1,193 (57.0)	36 (1.7)	127 (6.1)	174 (8.3)	525 (25.1)	39 (1.9)
R3	2,080	1,164 (56.0)	51 (2.5)	112 (5.4)	173 (8.3)	548 (26.3)	32 (1.5)
R4	2,277	1,246 (54.7)	55 (2.4)	111 (4.9)	211 (9.3)	626 (27.5)	28 (1.2)

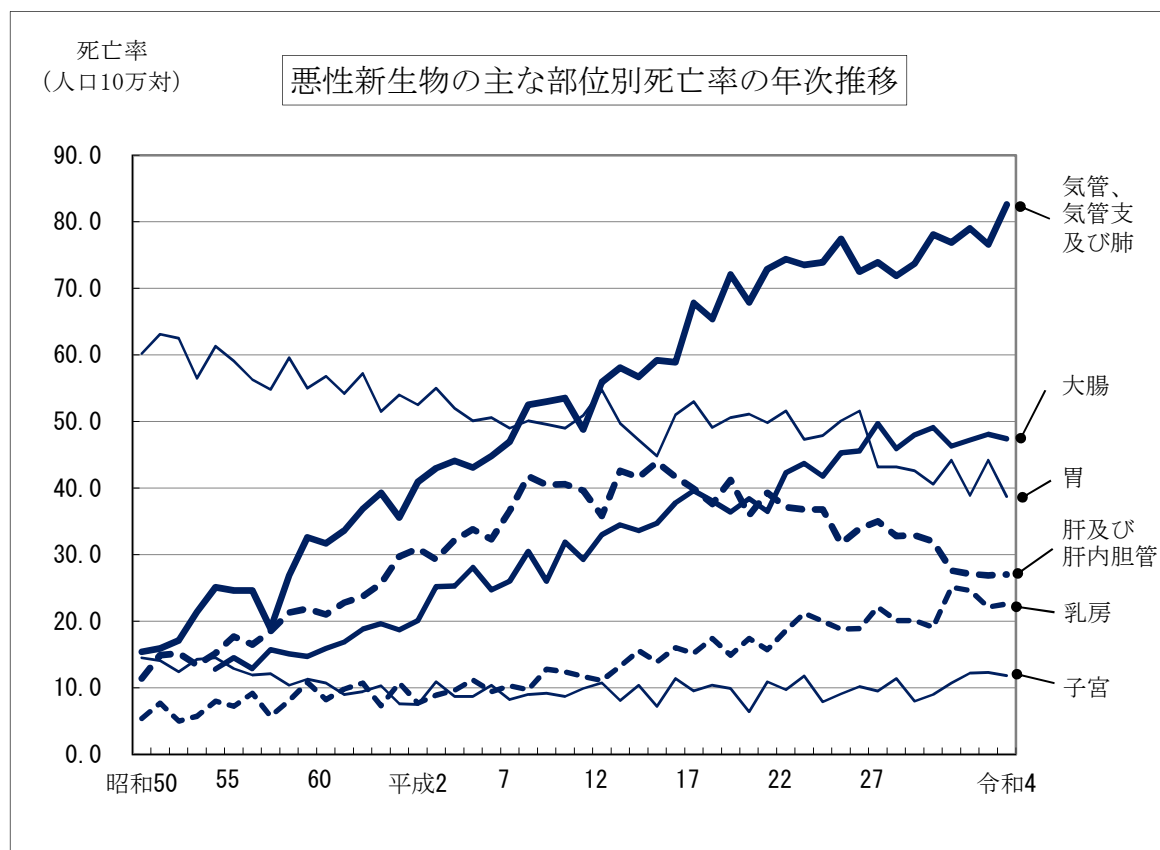
脳血管疾患による死亡者数（人）（和歌山県）（ ）死亡総数に対する割合%

	総数	病院	診療所	介護老人 保健施設	老人 ホーム	自宅	その他
H21	1,059	835 (78.8)	38 (3.6)	14 (1.3)	73 (6.9)	94 (8.9)	5 (0.5)
H22	1,060	809 (76.3)	39 (3.7)	20 (1.9)	58 (5.5)	122 (11.5)	12 (1.1)
H23	996	745 (74.8)	44 (4.4)	28 (2.8)	75 (7.5)	97 (9.7)	7 (0.7)
H24	1,025	767 (74.8)	41 (4.0)	42 (4.1)	82 (8.0)	79 (7.7)	14 (1.4)
H25	1,037	750 (72.3)	49 (4.7)	39 (3.8)	100 (9.6)	85 (8.2)	14 (1.4)
H26	1,044	783 (75.0)	57 (5.5)	29 (2.8)	87 (8.3)	80 (7.7)	8 (0.8)
H27	942	706 (74.9)	37 (3.9)	27 (2.9)	100 (10.6)	59 (6.3)	13 (1.4)
H28	925	705 (76.2)	31 (3.4)	37 (4.0)	82 (8.9)	55 (5.9)	15 (1.6)
H29	895	669 (74.7)	36 (4.0)	30 (3.4)	78 (8.7)	63 (7.0)	19 (2.1)
H30	835	648 (77.6)	27 (3.2)	32 (3.8)	65 (7.8)	48 (5.7)	15 (1.8)
R1	795	604 (76.0)	31 (3.9)	31 (3.9)	71 (8.9)	42 (5.3)	16 (2.0)
R2	808	596 (73.8)	25 (3.1)	46 (5.7)	62 (7.7)	64 (7.9)	15 (1.9)
R3	774	544 (70.3)	20 (2.6)	48 (6.2)	80 (10.3)	67 (8.7)	15 (1.9)
R4	859	611 (71.1)	33 (3.8)	67 (7.8)	73 (8.5)	64 (7.5)	11 (1.3)

(3) 部位別にみた悪性新生物

悪性新生物での死亡数は 3,341 人であり、前年の 3,297 人よりも 44 人増加した。

悪性新生物の主な部位別死亡率は、1 位「気管、気管支及び肺」2 位「大腸」3 位「胃」となっている。「気管、気管支及び肺」は平成 8 年にはじめて「胃」を上回り、それ以降は平成 11 年を除き 1 位となっている。



注) ①「大腸」は昭和 54 年からの分類である。

注) ②「子宮」は女性 10 万人対の死亡率である。

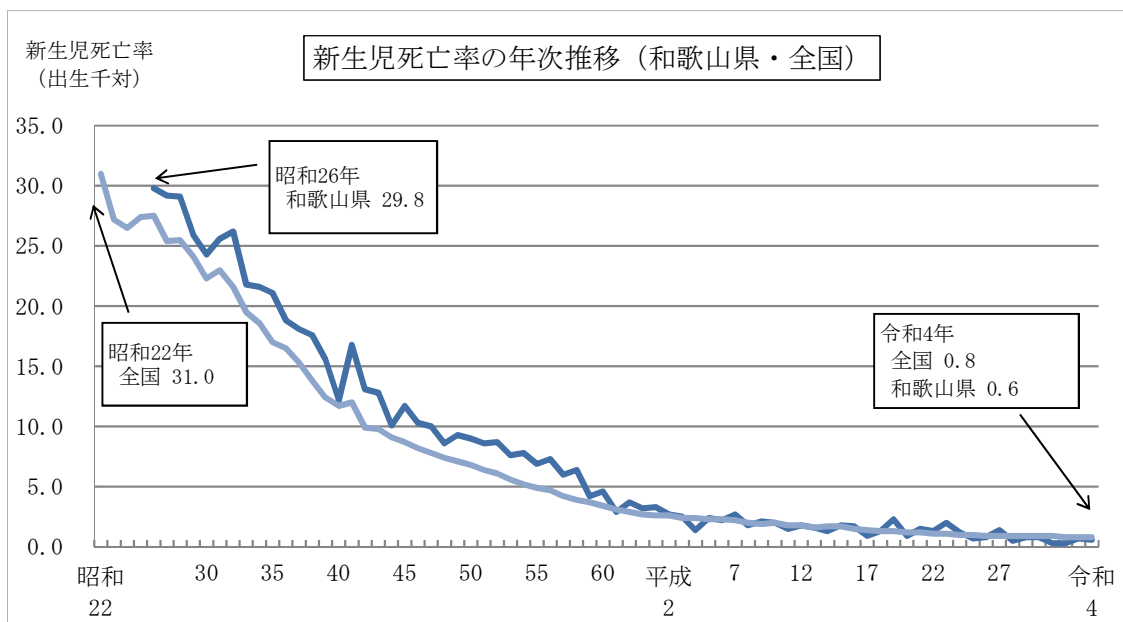
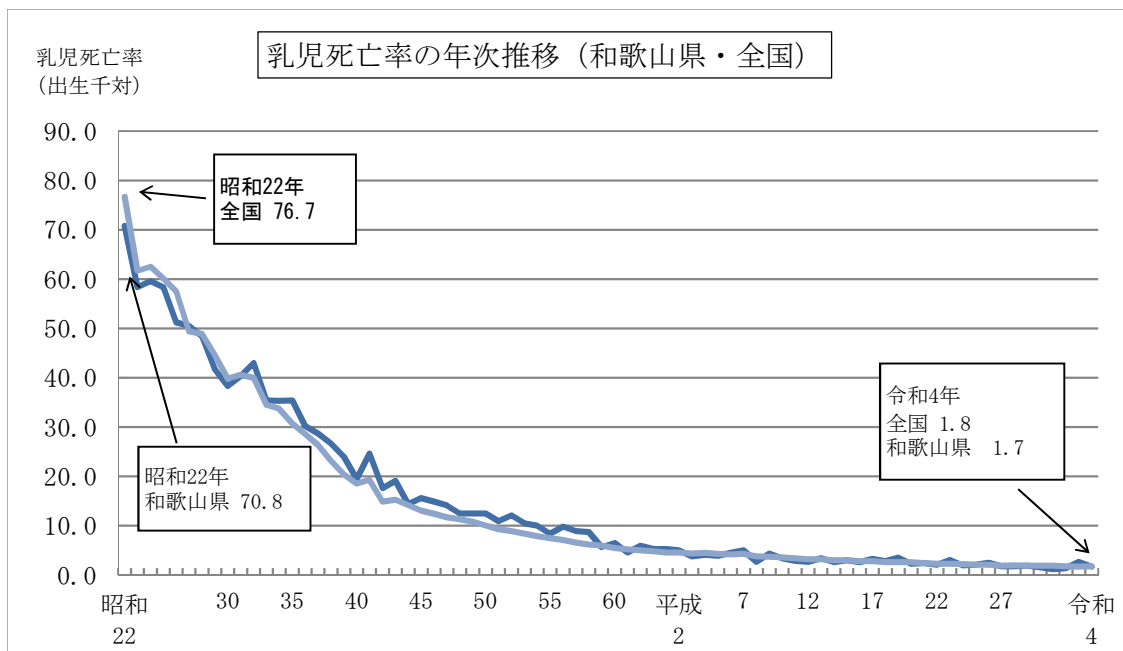
(4) 乳児死亡、新生児死亡

令和4年の乳児死亡数は9人で、前年の15人より6人減少した。

乳児死亡率（出生千対）は1.7で、前年の2.7を下回った。

令和4年の新生児死亡数は3人で、前年の4人より1人減少した。

新生児死亡率（出生千対）は0.6で、前年の0.7を上回った。

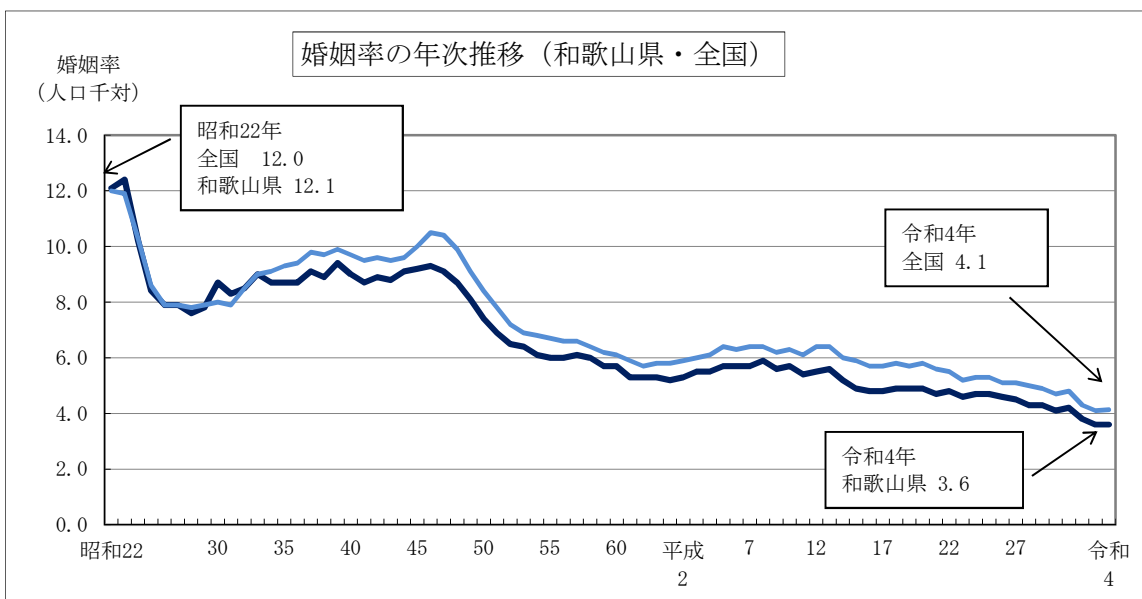
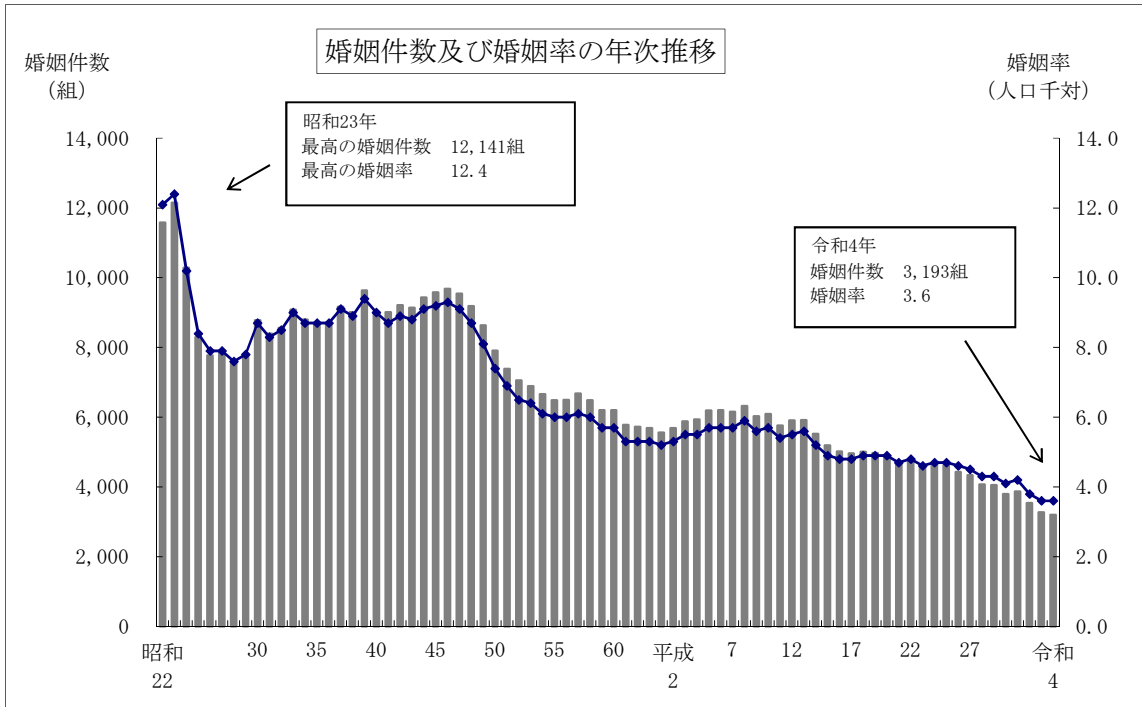


3 婚姻

令和4年の婚姻件数は3,193組で、前年の3,264組より71組減少した。

婚姻率（人口千対）は3.6で、前年と同率である。

昭和30年から40年代前半は9,000組前後で推移していたが、昭和47年以降は減少傾向となった。平成元年からは緩やかな増減を繰り返していたが、平成14年からは減少傾向にある。



令和4年の平均初婚年齢は、夫は30.3歳で、前年と同じであった。妻は29.1歳で、前年の28.7歳から0.4歳増加した。

全国では、夫が31.1歳で前年の31.0歳から0.1歳増加し、妻は29.7歳で前年の29.5歳から0.2歳増加した。

和歌山県・全国とも、夫および妻の平均初婚年齢は上昇傾向にあり、ここ10年では和歌山県の夫が0.3歳、妻が0.5歳、全国の夫が0.3歳、全国の妻が0.5歳、それぞれ上昇しているが、いずれの年においても、和歌山県は全国を下回っている状況である。

平均初婚年齢（夫）の推移（和歌山県、全国）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
和歌山県	29.9	30.0	30.2	30.3	30.2	30.5	30.2	30.3	30.5	30.1	30.3	30.3
全 国	30.7	30.8	30.9	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1	31.2	31.0	31.0	31.1

平均初婚年齢（妻）の推移（和歌山県、全国）

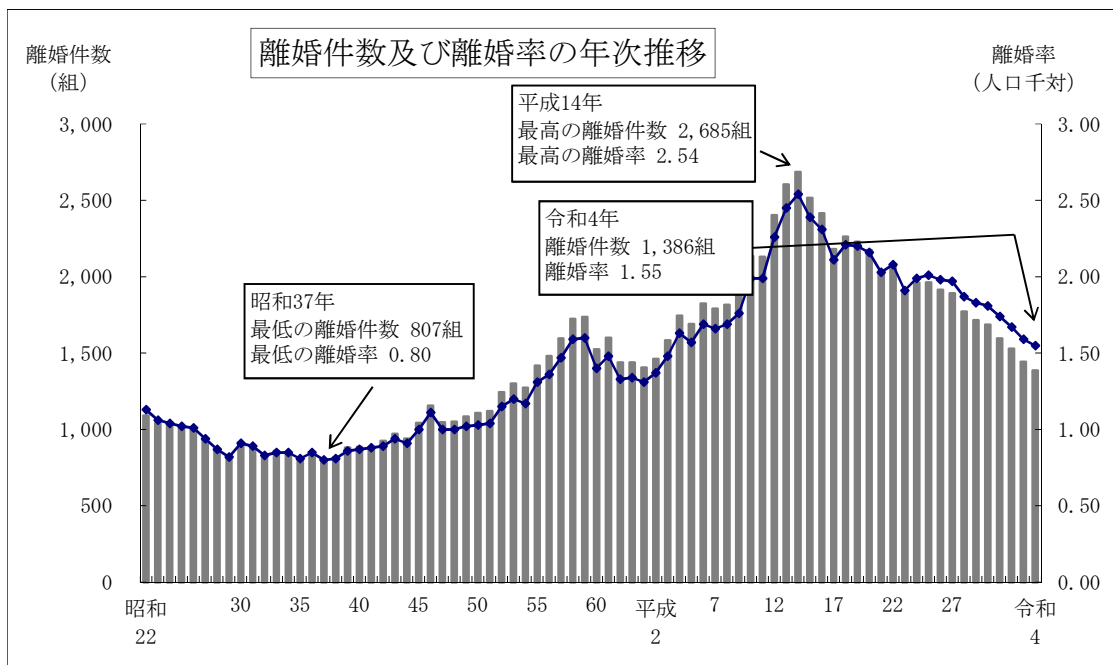
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
和歌山県	28.4	28.6	28.6	28.8	28.7	28.9	28.7	28.9	29.0	28.8	28.7	29.1
全 国	29.0	29.2	29.3	29.4	29.4	29.4	29.4	29.4	29.6	29.4	29.5	29.7

4 離婚

令和4年の離婚件数は1,386組で、前年の1,442組より56組減少した。

離婚率（人口千対）は1.55で前年の1.59を下回った。

昭和38年以降、離婚件数は増加傾向であったが、平成14年をピークに減少傾向にある。



IV 統計表